

～はじめよう 読み聞かせ～



こんなにすごい！読み聞かせの効果

クシュラの奇跡

複雑な障害をもって生まれ、3歳になるまで物も握れず、自分の指先より遠いものはよく見えなかったクシュラという女の子。しかし、生後4ヶ月から両親が一日14冊の本を読み聞かせ続けたところ、5歳になる頃には彼女の知性は平均よりはるかに高く、本が読めるようになっていました。これは、周囲の大人の愛情あふれる環境の中で、“言葉と絵の宝庫”である絵本に触れた効果ではないかと言われています。

『クシュラの奇跡』（ドロシー・バトラー、1984）



ほかにも、読み聞かせには、

- ◎「人の話を聞ける」「聞いてイメージできる」力がつく
- ◎語彙が増え、相手に伝わるように話したり、書いたりする力が上がる
- ◎自分の気持ちを踏まえて相手の気持ちを考えられるようになる
- ◎物事を楽しいと思える、好きなものをみつけられる、といった感じられる心を育む
- ◎お家の人のなじみのある声を聞いているだけで安心でき、親子の絆が深まる

といった効果があると言われています。

どうやってはじめればいいのか？ 読み聞かせQ&A

どんな本を選べばいいの？

「絵がきれい」「タイトルがおもしろい」など、子どもが興味をひかれた本を気軽に手に取ってあげてください。

毎日ちがう本を用意するのは大変！

気に入った本を、何度でも読んであげて。子どもは、慣れ親しんだ物語に安心感を覚え、頭の中でイメージを膨らませて楽しむようになります。それにより、豊かな感受性が自然に備わるのです。

いつ読み聞かせをすればいいの？

眠りにつく前のひとときがおすすめ。大切なのは、無理なく続けることです。数分間でいいので、お家の人の愛情をしっかりと感じられる時間を作ってあげてください。

続けられるか心配です…

読み聞かせをした日はカレンダーに○をつける、買った本の裏表紙に日付を書く、読書ノートをつける、などひと工夫を。親子で楽しく続けられますよ。

読み聞かせで、子どもたちの豊かなことばと心を育てましょう

～読書のすすめ～



「読書の習慣は、一生の財産」と言われます。ですから、子どもたちに本を読む習慣をつけてほしい、と思っておられる方も多いでしょう。習慣づけるには楽しむことです。本を読む人はみんな、読書の“おもしろさ”を感じています。

「ひとり 灯 の下にて文をひろげて、見ぬ世の人を友とする、こよなう 慰むわざなり。」
吉田兼好 『徒然草』より

吉田兼好は、『徒然草』の一節で、「本を読むことで、出会ったこともない遠くの人や、時代をこえた昔の人と友だちのように話することができる。これが読書のほんとうのおもしろさであり、この上なく楽しいものである。」と言っています。

10月27日からの「全国読書週間」にあわせて、学校でも「読書月間」の取り組みを行っています。まずは子どもたちが本を手に取り、読書の“おもしろさ”を感じるきっかけとなることを願っています。



先生方に聞いてみました！読書のどんなところが好きですか？



読みすすめながら、次はどうなるのかな？とそう思うのが楽しいです！わくわくしながらページをめくっていきうちに、1さつ読み終わってしまいます。

小さいころから、つねに本がそばにありました。少しでも空いた時間があると手がのびてしまいます。いつでも自分と一しょにいてくれる…そんなところが好きですね！

